

＜平成 29 年度 事業 報告＞

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

Ⅰ 事業の状況

平成 29 年度において実施した事業について報告します。

(1) 大宅壮一文庫の維持運営

1. 寄付及び賛助会員

当文庫の事業を遂行するため、財団設立の目的及び事業を支援する個人及び法人から寄付を募っている。

29 年度は初めて、インターネットを利用してのクラウドファンディングを実施。760 人から計 854 万円の支援があった。一般の寄付は、新聞・テレビでの経営悪化報道の影響で急増し、49 人から 1287 万円。大阪の女性から 1000 万円、京都と都内在住者から各 100 万円と、大口の寄付が目立った。クラウドファンディングと一般寄付合算で 2141 万円（前年度 63 万円）にもなった。

賛助会員は、法人が 84 件。個人は前年度より 28 人減の 166 人となった。この内 16 人が学生会員だった。

2. 文庫の利用状況

①利用者について

開館日数は日曜、祝日、年末年始等の休館日を除いて、288 日となった。雑誌記事索引ウェブ検索サービスは、公立図書館、教育機関、賛助会員等に、年中無休のサービスを提供した。

年間の利用者数は合計 7 万 8273 人となり、前年度比 6344 人減少した。1 日平均の利用者数は 272 人となる。

利用者数の内訳は、来館者が 1 万 2191 人、FAX サービス利用者が 1 万 7425 人、複写資料配送サービスの利用者が 316 人となった。

雑誌記事索引ウェブ検索サービス利用者は 4 万 8341 人となった。

②資料の利用状況について

雑誌の利用冊数は合計 44 万 8915 冊で、前年比 6 万 7148 冊減少した。1 日平均の利用冊数は 1559 冊。資料複写枚数は合計 69 万 5444 枚となり、前年度比で 11 万 9461 枚減少した。1 日平均の複写枚数は、2415 枚となった。

(2) 平成 29 年度事業実績

平成 29 年度事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 資料の収集拡充

① 図書収集

新しい雑誌の発行に注意し、主要な創刊号を購入した。可能な限り多種類の雑誌のバックナンバーを備えるように、随時出版元に寄贈依頼を行い、図書資料の拡充に努めた。

新刊雑誌は、出版元からの定期受贈の 640 誌に、購入補充の 42 誌 762 冊を含めた 682 誌 7658 冊と、創刊号 16 冊を収集した。その他に、個人寄贈の古雑誌 942 冊、法人寄贈の古雑誌 313、購入補充の古雑誌 1 冊を加えた本年度の雑誌収集合計は 8914 冊となった。ノンフィクション関係等の書籍収集については、個人寄贈 40 冊、法人寄贈 659 冊で、合計 699 冊を受贈した。購入書籍 8 冊を加えた書籍収集合計は 707 冊となった。本年度の図書資料の収集総計は、9621 冊となった。

2. 雑誌記事索引データベースサービスの整備

① 雑誌記事索引作成

雑誌のうち利用頻度を考慮し一般週刊誌、女性週刊誌、総合月刊誌、男性誌、女性誌、経済誌など 259 誌 3506 冊について、人名件名別の詳細な記事索引を作成した。

本年度は記事索引 11 万 2171 件(分類件数 13 万 9987 件)を作成。人名索引に 6 万 174 件、件名索引に 7 万 9813 件を分類して、雑誌記事索引データベースに登録した。

雑誌記事索引 Web 検索サービスは、明治時代から本年度末までの 130 余年間について、人名索引 15 万 203 項目、件名索引 6754 項目(小項目数)に分類された記事索引 538 万 4203 件(分類件数 656 万 5590 件)の検索が可能となった。

② 記事索引閲覧サービス

来館者が、明治時代から最新までの雑誌記事索引を検索端末で自由に検索できる現体制を維持し、専任の係員による代行検索やレファレンスを行って、資料調査の利便性向上に努めた。代行検索プリントサービスでは、必要とされる該当記事リストの無料プリントを行い、プリント持ち帰り希望者には有料で頒布した。

③ 記事検索資料ファクシミリ送信サービス

賛助会員を対象に、雑誌記事索引データベースを検索し、必要な記事リストをプリントして、FAX で送信する有料検索サービスを行った。

④ 賛助会員対象雑誌記事索引 WEB 検索サービス (WEB 会員版)

法人会員の利用部署数が 53 部署、個人会員の利用登録者数は 74 人となった。

- ⑤教育機関対象雑誌記事索引 WEB 検索サービス (WEB 教育機関版)
海外も含め 129 機関が導入。学生や研究者が学位論文等作成などに活用している。
- ⑥図書館対象雑誌記事索引 WEB 検索サービス (WEB 公立図書館版)
県立図書館、市立図書館など全国 24 の公立図書館で導入されている。図書館のレファレンス業務等、広く一般に活用されている。
- ※「WEB 会員版」「WEB 教育機関版」「WEB 公立図書館版」の著作権は大宅壮一文庫に帰属し、運営も当法人が行っている。

3. 雑誌記事複写サービス

- ①来館複写サービス
来館者の要請を受け、所蔵雑誌の記事複写サービスを、著作権法の範囲内で行った。
- ②記事複写資料配送サービス
遠隔地からの利用者の要請に基づき、必要記事を著作権法の範囲内で複写し、代引き宅配便による配送サービスを行った。
- ③記事複写資料ファクシミリ送信サービス
会員を対象に雑誌記事索引で検索した雑誌記事を複写し、FAX で送信するサービスを行った。
- 〔複写権使用料〕
記事複写のファクシミリ利用については、公益社団法人日本複製権センターとの利用許諾契約にもとづき、29 年度分複写権使用料として税抜 122 万 1830 円を納付した。

4. 埼玉越生分館の事業

平成 29 年度は、月 1 日の開館をした。有料入館者は 2 人だった。

- ①来館者に大宅壮一関連資料を展示、公開した。
- ②来館者へ所蔵書籍データベースの提供、閲覧サービスを行った。

5. イベント事業と出版物の刊行

- ①大宅壮一文庫ノンフィクションフォーラム
9 月 29 日 (金) 午後 7 時から、新宿・紀伊國屋ホールで開催。枝廣理事長が司会を務め、森健、武田徹、津田大介の 3 氏がパネラーとして出演した。聴衆は 350 人と大盛況だった。
- ②バックヤードツアーの開催
参加者に、大宅文庫の歴史や書庫の案内をした。毎月第 2 週土曜日 (8 月は第 3 週) 午前中に実施し、年 12 回開催した。名称は、30 年 1 月から「迷宮書庫 探検ツアー」に変更した。

③ 20年ぶりの冊子体目録刊行

「大宅壮一文庫雑誌記事人物索引」の2016年、15年、14年版を、オンデマンド方式で一挙刊行した。30年2月から購入予約受け付けをスタートした。

6. ホームページでの広報活動

ホームページでは、当文庫の「利用案内」のほか、「雑誌記事索引」の紹介ページを毎週更新している。広く一般に向けて、所蔵資料や記事索引を知ってもらうよう積極的に広報活動を実施した。

II 設備改善・システム改修

(1) 設備の改善

1. LED照明の導入

大宅文庫館内の275基、409本の蛍光灯照明を、全てLED照明に切り替えた。収蔵雑誌の日焼け防止効果があり、消費電力が大幅に減少し、料金も3分の1で済む見込みになっている。

2. 電話回線の切り替え

年度初めから、従来のメタル回線を光回線に切り替えた。光回線は大容量送信が高速で処理でき、使用料も年間約40万円節約。

3. パソコン20台購入

検索システム改修に合わせ、Windows10端末20台を購入。これまで使用していたWindowsXPパソコンと交換した。索引入力や索引検索用に使用する。

4. コピー機8台をリース購入

10年から6年使用の世田谷本館のコピー機8台を更新した。機器は定価の15～20%で購入。さらにカウント料も従来の3分の1に引き下げた。この結果、機器代金(リース払い)を差し引いて、年額約120万円前後の節約ができる見込みとなった。

5. レジスター2台購入

購入後10年が経過し、故障時の交換部品在庫切れなどで修理ができなくなるなどの不都合が生じたため、更新した。機種はこれまでと同じ東芝製。同時にクレジット決算用端末も購入し、30年度からクレジット決済ができるようになった。

(2) 雑誌記事索引検索システム改修

検索システムをリニューアルし、10月から運用開始をした。サーバー8台から3台にしてセキュリティを強化。改修費と運用費の抑制を実現した。

Ⅲ 理事会・評議員会

(1) 理事会の開催と承認事項

1. 平成29年度 第1回理事会（平成29年6月6日）

〔承認事項〕

- ①平成28年度決算報告
- ②平成28年度事業報告
- ③「運営委員会設置規程」一部変更

2. 平成29年度 第2回理事会（平成30年3月13日）

〔承認事項〕

- ①大規模施設補修準備金の積み立て
- ②設備投資の件
- ③平成30年度予算

(2) 評議員会の開催と承認事項

1. 平成29年度 第1回評議員会（平成29年6月27日）

〔承認事項〕

- ①平成28年度決算報告
- ②平成28年度事業報告